

挫折こそ 学びの機会

自然科学研究機構
基礎生物学研究所長

岡田 清孝 氏



教育随想

私は、平成十八年度までの十年余り京都大学理学研究科に勤めていたが、大学生は立派な大人であるという前提では対応できない問題児が出てくることに驚きました。授業や演習・実習の単位数が極端に少なく、このままでは卒業が危ないという学生もかなりの数になりますが、ほぼ三つのグループに分類できます。

第一のグループは、受験勉強から解放されたことが嬉しくて、クラブなど大学内外の様々な活動に深入りしてしまふ、という学生です。これらの学生は活動的なので、注意を受けて一時の興奮が醒めると勉学に戻ります。

第二のグループは、自分よりもよくできる学生が周りにごろごろいるので、すっかり自信を喪失する学生です。いきなり社会の厳しい波を正面から被ったわけですが、時間をか



けて自分を見つめ直すことによって自信を取り戻すことができるようになります。

もっとも深刻なのは第三のグループで、希望した大学に入学することが人生の目標となっていたために、入学後に追求するべき目標を自分で見出すことができない状況に陥った学生です。

いずれの場合も、本人はもとより家族や教員も悩むことになりましたが、これは京都大学に限ったことではなく、多くの大学で共通した問題

になっていきます。青少年が実社会と接することが少なくなつて、異なった目標や理想を持つ多様な人々と会って共鳴したり反発したりする機会が減ったことが、大きな原因かと思えます。人生の節目ごとに適切な目標を設定し、簡単に自信を喪失したり過剰な自信を持ったりしないように指導することが必要だと考えます。

挫折こそ学ぶ機会であり、それゆえに人生に対して楽観的でないことを青少年に伝えたいものです。

(おかだ きよたか)



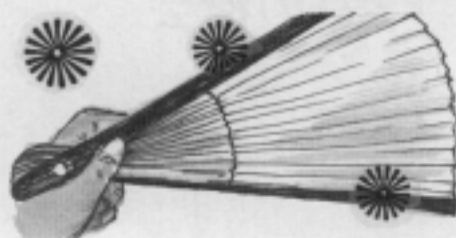
平成20年10月1日
10月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想 自然科学研究機構
基礎生物学研究所長
岡田 清孝氏
- この人に聞く 落語家
三遊亭愛楽(藤谷 哲郎) 師匠
- 羅針盤 新田中学校長
小林 國良
- ふれあい 六ツ美中部小
菅 美津枝
新田中 鈴木 貴章
- 特集 英語活動に先進的に取り組む
パイロット校の活動、成果と課題
- お知らせ フォト・ヒストリー ...
少年団海水浴(昭和3年)
- この本を

ふるさとシリーズ この人に聞く



芸の道

落語家

三遊亭愛楽(藤倉哲郎) 師匠

八月上旬の猛暑日。東京両国に三遊亭愛楽さんを訪ねた。

「岡崎には、中二から高三までの五年間いました。親が転勤族だったので、転校を繰り返す生活でしたが、人を笑わせることが大好きで、新しい学校でもすぐに友達ができる子供でした。その性格は、今の自分の職業にも役に立っていると思いますよ。高校生のとき、コロケさんのステージを見て、物まねだけでこんなに人を笑わせられるんだとびっくりしました。それが、芸の道に進もうと思ったきっかけです。でも、親に話したら、『物まねだけじゃ食っていけない。しゃべりもできないと

だめだ。しゃべりを鍛えるためにも、落語家になれ』って言われたんです。」

落語を全く知らなかった愛楽さん。テレビの「笑点」で、いつもここにこくと笑っている三遊亭内楽師匠なら入門を許してくださるだろうと、何と便せん四十枚に悪いの丈をしたためたそうである。

「師匠からは、『ぐちを言うまい ぼやくまい 男の心要わるまい 決めた人生いしくしかない』と書かれたはがきをもらいました。」

こうして、愛楽さんの落語家としての修業が始まった。しかし、修業の大変さは想像以上であり、入門してすぐに岡崎へ帰ってきてしまう。

「そのときに、師匠から電話が来たのです。挫折しかけた弟子を引き止めるような師匠ではないのに、それがうれしくて、それ以後はどんなにつらい状況でも楽しくやってこれましたね。」

と、懐かしく振り返られた。着物のたたみ方一つにも心を込め、師匠一人一人の好みをつかんでお茶



を入れるのも落語家の修業。その大切さが分かるまでに十五年かかったそうである。

「自分が、弟弟子を持ってそれがよく分かるようになりました。着物を難にたたむ気持ち、芸に表れるのです。」
奥様とは、修業時代に知り合い、一男(小四)、一女(中二)をもうけた。現在は、PTA会長として三期目を務めている。家庭教育学級の一環として保護者を前に講演をすることも多い。

「寄席形式で、落語を取り入れながらやっています。命を粗末にしてほしくないとか、親がしつかりしないとけないとか、そんなことを落語を通して感じてくれたらうれしいですね。」
今の子供たちにも、次のような願いを語られた。

「自分が今こうして好きなことで仕事ができるのも、すべてまわりの人たちのおかげ。だからこそ、自分本位に生きていくのではなく、人の役に立つ人間になってほしいですね。」
落語家という仕事が好きで、生まれ変わってもこの仕事に就きたいという愛楽さん。常にまわりの人への感謝を忘れず、楽しんでいただくことをモットーに、今後も芸の道を歩んでいく。

氏名 ふじたに てつろう
生年月日 昭和四十四年十一月八日
住所 東京都板橋区

授業で勝負する

額田中学校長 小林 國良



「子供とのいい関係があつていい授業ができるのではなく、いい授業によつて子供とのいい関係ができる。」

これは、今まで出会ったたくさん先生たちの姿や、生徒たちの姿から教えられたことである。授業は、子供たちにとって学校生活の中心であり、教師にとつても職務の中心である。我々教師は、毎日の学校生活を楽しく、張り合いのあるものにするためにも、子供たちが充足感をもてるような授業を目指さなければならぬ。

いつごろからだろうか、書店の教育書コーナーに行くと、すぐに授業に使えるハウ・ツー的なものやマニュアル的な教師向けの本が多くなってきた。それらの本に囲まれて、昭和三十五年に書かれた「授業入門(斎藤喜博著)」という授業論の本も

私と子供をつなぐもの

六ツ美中部小 菅 美津枝

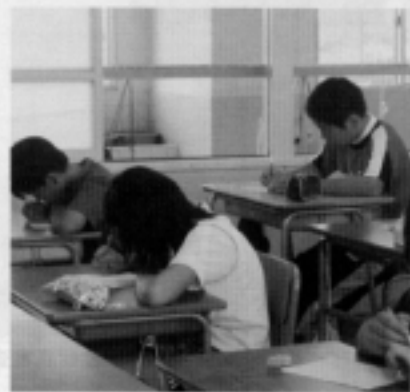
「今年は、毎日、日記を書いてももらいます。」

嫌だ、面倒くさいという反応は予想通り。今まで「書き続ける」という習慣がなかった六年生に、書くことの楽しさを味わわせたいと思って始めた日記活動が、子供たちの生活の中に定着してきた。

六時間目が終わると同時に、係が日記用紙を配り、タイマーを五分にセプトする。週の初めに設定した目当てに添って、その日一日をどのように過ごしたかを振り返り、明日への意気込みとともに書く。たった一行でも書かれた日記には、丁寧に返事を書く。翌朝、担任からの返事を真剣に読む子供たちからは、「返事があるから書くのが楽しくなってきた」という声が聞こえるようになった。

集中力が付いたこと、時間のけじめが付けられるようになったことなど、ほかにも日記を書き続けることで子供が身に付けた力は大きい。「先生、部活が大変だよ」「今日の算数は分かりやすかったよ」「お楽しみ会がしたいな」など、いつの間にか担任とのコミュニケーションの場となっている日記。当初の目的を超えて、今では、日記は私と子供をつ

なく大切なものになり始めている。



寮に吹く新しい風

額田中 鈴木 貴章

本校は百名ほどの生徒が寮生活を送っており、一、三年生の五・六名が一つの部屋で生活をしている。寮生であるA男は、二年生のころ、私の授業に耳を傾けず、注意しても聞かないこともある対応の難しい生徒であった。しかし、多くの生徒に影響を与え、リーダーシップをもって

いることは感じられた。

私は寮監として、そんな彼に、もっと自主的に動ける寮にしていく中心となってほしいという思いで、「寮を引っ張ってほしい。自分も毎日寮に顔を出すから」と話した。A男はそのとき、半信半疑な様子であった。私は寮へ毎日足を運び、A男に自分の思いを伝え続けた。彼も次第に私の思いを受け止めてくれ、「先生、はくやつてみます」と、寮生会に立候補した。

三年生になったとき、A男はある企画を提案した。退職される寮監の先生、寮母さんへの感謝の会である。「感謝の気持ちは合唱で」というA男のリードで、お別れ会は成功を収めた。

A男の変化が、その後も「敬信寮」に新しい風を吹き込んでいる。



並んでいる。本書は、私が新任のころ、先輩の先生から贈られ、授業の在り方や教師の姿勢を教えられた本である。きつと、今読んででも授業の原理原則を示唆してくれるに違いない。

その中で斎藤氏は、「教育は一つの冒険なのだ。授業のなかで、教師が子供といっしょに、未知の世界へつき進もうとして、道のないところを歩むように、苦しみもがきながら努力して、はじめて、子供に力がついていくものだ」と、授業へ立ち向かう姿勢を示している。こうした姿勢を心に置いて、毎日の授業で勝負をしてほしい。

多忙を理由に、教科の内容を表面だけ通り過ぎる感動のない授業、一人一人を考えない一律な指導の授業、どれだけ理解したかよりも教科書を終わらせることばかりを考えた授業等、こんな授業をしていないか振り返りたい。そして、子供たちをよりよく育てるためには、「いい授業」をすることが一番であるという原則に立ち返り、力量を高める努力を惜しまない教師でありたい。

最後に、斎藤氏の言葉を記す。「教師が教師としての責任を果たす最大の場面は、一時間一時間の授業である。」

英語活動に先進的に取り組む



パイロット校の活動、成果と課題

▲ 英語スピーチフェスティバル学校代表審査のための発表会（上地小）

学習指導要領の改訂に伴い、平成二十三年度から、小学校高学年で外国語の授業が必修となる。岡崎市では、今年四月から英語活動に先進的に取り組む「パイロット校」として八校の小学校が指定を受け、日々さまざまな取組を試行している。

パイロット校では、毎週一時間、学級担任が外国語指導助手（ALT）や英語補助教員と協力しながら、テキストだけでなく、ゲームや歌を取り入れたり、フラッシュカードなどを用いたりして、児童の興味・関心を引くような授業形態を工夫している。また、各学級での授業に限らず、音楽集会など、全校で英語に親しむ活動を取り入れている学校もある。

いくつかの学校では、一年生からALTが参加する授業も取り入れている。毎日十分程度の「英語タイム」の中で、短期間日本の小学校に体験入学している外国人の児童に校内放送に出演してもらって、美しい発音に全校が触れるという取組をした学校もある。

また、本年度から「英語スピーチフェスティバル」に全小学校の代表児童が参加し、英語活動の成果を発表した。どの学校もまだまだ試行錯誤の段階であり、課題も多い。しかし、各学校でアンケートをとってみると、ほとんどの児童が英語の授業を楽しみにしているという結果が出ており、着実に英語が児童の身近なものになってきていることが分かる。今後、これまでの成果と課題をふまえて、よりいっそう工夫した活動が開発され、市内他の小学校のモデルとなっていくことを期待したい。



全校で取り組む英語活動

▲ 8人のALTの先生を招いて、英語クイズや英語の歌などを交えて行った全校英語集会（本宿小）



▲ 授業で練習した発音を生かして、「ドレミの歌」を英語で発表した音楽集会（矢作南小）

各学級で取り組む英語活動



▲ 2人のALTに参加してもらい、ゲームを取り入れた6年生の英語活動 (竜美丘小)



▲ ALTと協力して、さまざまな絵を用いての会話練習 (広幡小)



▲ 5年生最初の英語活動で、初対面でのあいさつの練習 (六名小)

「グッドモーニング」
 グリン先生と元氣よくあいさつをして、いつもの英語の授業が始まります。授業では英語でのあいさつ、数字の読み方などを勉強しています。また、英語を使ったさまざまなゲームがあるので、すごく楽しいです。わたしは、英語の時間を使ってもっとたくさん英語を覚え、いつかグリン先生とたくさん会話したいと思っています。
 (六名小五年)



▲ ボールを受け取った子が、英語の質問に答える英語ゲーム (大樹寺小)



▲ ALTのしぐさを「Simon says」というフレーズの後にまねるゲーム (常盤東小)

英語の授業は、今まで知らなかったことを勉強することができるので、とても楽しい時間です。今年初めて小学校の英語スピーチフェスティバルがあると先生から聞いて、絶対に学校の代表になりたいと思いました。舞台上の友達とスピーチを聞いてみんな上手だったので、心配になりました。でも、僕もみんなに負けないように精一杯スピーチをしました。間違えずにできたので、終わった後ほっとしました。先生から、「あなたが学校代表だよ」と言ってもらったとき、思わずガッツポーズをしました。
 (上地小六年)



▲ 小学生が初参加した英語スピーチフェスティバル (岡崎市英語部主催：アイブラザ岡崎)

お知らせ

●教育最新情報

十月から十一月にかけて、岡崎市内の小中学校のうち、四校（小学校三校、中学校一校）で研究発表会が行われる。

そのうち二校については、市の研究委嘱を受け、三年間にわたって研究に取り組んできた成果を発表する。その概要は、次のとおりである。

○細川小学校

細川小学校の研究発表会は、十月十七日（金）に行われる。研究主題は、「一人一人が生きて学ぶ 確かに伸びる」である。平成十八年度より市の委嘱を受け、サブテーマとして「細川スタンダード」とあるように、学力の実態の分析、重点的及び発展的指導内容に焦点を当てて研究を進めてきた。

公開授業では、「つかむ・みがく・いかす」の指導過程に沿った手だての有効性について、子供たちの授業への参加



度、学習意欲、学習の確かさの視点から検証したい。

○山中小学校

山中小学校の研究発表会は十月二十二日（水）に行われる。研究主題は、「人間力を高める山中教育」である。豊かな体験活動を取り入れた学校づくりを目指し、研究を進めてきた。

豊かな体験活動を価値ある学びにするためには、子供たちの「伝え合う力」が必要である。



る。国語科で「話すこと・聞くこと」の領域を中心に学習を進め、基礎的な知識や技能の習得を図り、これらを活用して表現力・思考力等を育む。この力を、「命かがやき学習（生活・総合）」でのかかわり合いの場や活動で発揮することに より、子供の学びに深まりができ、人間力の向上につながると考えた。

国語科と「命かがやき学習」による学びの構築が、研究の目玉となっている。

さらに、十一月には、次の二校が、自主発表を行う。

○城南小学校

・期日 十一月七日（金）
・研究主題
「豊かな人間性を育み、未来を拓く子どもの育成」

「絆」作り活動を中心とした学校文化の創造をめざして。

○竜海中学校

・期日 十一月二十一日（金）
・研究主題
「生徒の学ぶ力を鍛える授業の創造」51分を演出する。

それぞれの学校の研究発表会に主体的に参加するとともに、研究成果から多くのことを学び、自らの授業づくりに生かしたい。

●少年自然の家だより

○キャンプ活動の工夫と開発

市内小中学校による少年自然の家利用は、一学期と九月末までに五十三校が終えている。また、土・日曜日や夏休み期間は、諸団体の利用や市教委、少年自然の家主催活動などに連日開放・利用されてきた。

少年自然の家では、利用する教員が山の学習を通して自信を持ち、新鮮味を感じて取り組んでもらえるよう、少年自然の家主催行事などで所員が試行し、改良を加えた手法の実用化を図っている。新たに開発し工夫した手法の一端を紹介する。

野外で子供に人気のある活動は、炊飯活動とキャンプファイヤーである。非日常的な活動に子供の心や体は躍るものだ。マッチやライターで簡単に火起こし・着火できる（マッチ使用は苦手）が、今年度は火起こしにこだわって取り組んだ。「まいざり」といって、堅い木と柔らかい木をこすり摩擦熱で火起こしする方法、虫眼鏡を使用して太陽光を集光して着火させる方法、スチールウールに電流を通して発熱着火させる方法、火打



夏休みファミリーキャンプ

ち石を使って火花を飛ばし着火させる方法などである。一番のポイントは着火させ火種を作るところである。着火の瞬間、子供に感動がみなぎるのが伝わってくる。しかし、時間が長くなるのが難点である。

また、炊飯活動では飯ごうを使用せずに、米を竹筒に入れて炊く方法を紹介した。定番のカレーライス以外に炊き込みご飯や鉄板焼きなどの食事メニューの開発や食材工夫にも力を入れている。

さらに、キャンプファイヤーでは、中央の井桁に向けて火矢を遠くから飛ばして着火させる方法など、従来以外の方法も開発している。日々、少年自然の家の利用者への期待に応えるように努力を重ねている。

●表彰

◆全国中学校体育大会

水泳
400MメドレーR 七位 矢作中
脇田直輝・大橋諒輔
藤井大立・藤原俊典

◆全国中学生力又大会

男子カナディアンシングル【C-1】
三位 新香山中 森 一男
四位 新香山中 近藤麻大留
五位 新香山中 吉田昂生
女子カヤックペア【WK-2】
二位 新香山中 須藤友理乃
新香山中 長坂佳恵
女子カヤックフォア【WK-4】
二位 新香山中 中村仁美
新香山中 児玉美姫
新香山中 長坂佳恵
新香山中 近藤祐光

◆第一回東京都オープンエアリー大会

男子30・30M部門
四位 東海中 小久保拓也
七位 東海中 鈴木隆太
男子18・18M
二位 東海中 近藤伸哉
三位 東海中 松本壮平
四位 東海中 明保陽之
五位 東海中 内田智文
六位 東海中 太田昇吾
八位 東海中 奈良俊佑
女子18・18M
二位 東海中 堀口麻衣
三位 東海中 永井里菜
四位 東海中 若菜映見
六位 東海中 五藤未香
七位 東海中 藤田梨緒
八位 東海中 白井優衣
◆第三十回海防ロックパレード小学生大会
一位 竜美丘小 パレード男子

◆第三十回東中学校総合体育大会

バレーボール
優勝 矢作中 パレード男子
三位 北中 パレード男子

男子50M 優勝 葵中 西山 令
男子100M 三位 甲山中 清水陽平
水泳
女子100Mバタフライ 優勝 甲山中 山本 悠
男子400M 二位 矢作中 脇田直輝・藤井大立
男子50M自由形 大橋諒輔・藤原俊典
男子100Mバタフライ 二位 矢作中 大橋諒輔
男子200Mバタフライ 二位 矢作中 藤井大立
男子400MメドレーR 二位 矢作中 藤原俊典・脇田直輝
女子200Mバタフライ 二位 葵中 瀧川 薫
男子100M自由形 四位 城北中 西尾次郎
男子400MメドレーR 五位 矢作北中 渡部剣太・石川高哉
200M平泳ぎ 石井大貴・倉田博輝
200M自由形 五位 岩津中 山本勢弘
100M自由形 七位 岩津中 船渡大輔
女子400MメドレーR 七位 甲山中 尾崎 彩・青山瑞穂
女子400M 山本 悠・龍見聖咲
七位 甲山中 青山瑞穂・鈴木カシナ
山本 悠・龍見聖咲

◆平成二十年度東海吹奏楽コンクール

市議会議員賞
竜美丘小五年 大久保杏
六ツ美北中一年 田村朝奈
北中 三年 東島明日香
鈴木麻紀
教育委員会賞
竜美丘小四年 長島佑哉
岩津中 二年 水野綾音
竜美丘小六年 石原恵子
算数・数学部会賞
井田小 四年 横田七海
美合小 五年 森 美音
竜美丘小六年 橋本真菜美
竜美丘小六年 三田村杏穂
竜海中 一年 松井優佳

幸せ、感じてますか?
未来へはげばたく15歳

市長賞 竜海中3年 稲垣香奈

◆全日本津軽三味線競技会

一般男性の部
優勝 甲山中 加藤佑典

◆中京大学主催第五十二回全国学生書道展

文部科学大臣賞 美川中 安藤瑛美
第二十四回高円宮杯日本武道館書写書道大賞
参議院議長賞 矢作中 鈴木捷矢
第十九回伊藤園おにいお茶新俳句大賞 中学生の部
優秀賞 竜海中 竹内美沙
第三十三回岡崎市中学校児童生徒統計グラフコンクール 市長賞
竜美丘小六年 小山内優奈
竜海中 三年 稲垣香奈
北中 二年 米田 優 辻村慎志
望月建佑 早川みゆき

◆第五十回岡崎市英語スピーチコンクール

一般の部
附属中 二年 永田茉莉
英中 二年 加藤愛理
竜南中 三年 今井美希
美川中 三年 橋本 萌
六ツ美中二年 都築菜々子
南中 二年 新井鈴華
南中 三年 アナウンサー
額田中 二年 ニル角谷 祥
六ツ美北中二年 殿屋柚衣

◆第二十二回岡崎市中学生の主眼コンクール

優秀賞
甲山中 三年 成田光祐
竜海中 三年 藤原 某
矢作中 三年 岡村実咲
竜南中 三年 山田夕葵

◆第五十回岡崎市英語スピーチコンクール

一般の部
附属中 二年 永田茉莉
英中 二年 加藤愛理
竜南中 三年 今井美希
美川中 三年 橋本 萌
六ツ美中二年 都築菜々子
南中 二年 新井鈴華
南中 三年 アナウンサー
額田中 二年 ニル角谷 祥
六ツ美北中二年 殿屋柚衣

◆第五十回岡崎市英語スピーチコンクール

一般の部
附属中 二年 永田茉莉
英中 二年 加藤愛理
竜南中 三年 今井美希
美川中 三年 橋本 萌
六ツ美中二年 都築菜々子
南中 二年 新井鈴華
南中 三年 アナウンサー
額田中 二年 ニル角谷 祥
六ツ美北中二年 殿屋柚衣

◆第五十回岡崎市英語スピーチコンクール

一般の部
附属中 二年 永田茉莉
英中 二年 加藤愛理
竜南中 三年 今井美希
美川中 三年 橋本 萌
六ツ美中二年 都築菜々子
南中 二年 新井鈴華
南中 三年 アナウンサー
額田中 二年 ニル角谷 祥
六ツ美北中二年 殿屋柚衣

◆第五十回岡崎市英語スピーチコンクール

一般の部
附属中 二年 永田茉莉
英中 二年 加藤愛理
竜南中 三年 今井美希
美川中 三年 橋本 萌
六ツ美中二年 都築菜々子
南中 二年 新井鈴華
南中 三年 アナウンサー
額田中 二年 ニル角谷 祥
六ツ美北中二年 殿屋柚衣

◆第五十回岡崎市英語スピーチコンクール

一般の部
附属中 二年 永田茉莉
英中 二年 加藤愛理
竜南中 三年 今井美希
美川中 三年 橋本 萌
六ツ美中二年 都築菜々子
南中 二年 新井鈴華
南中 三年 アナウンサー
額田中 二年 ニル角谷 祥
六ツ美北中二年 殿屋柚衣

・カ
ツ
ト
矢
作
中
高
橋
誠

少年団海水浴 (昭和3年)

写真提供：広幡小学校

この写真は、昭和三年の八月に行われた「広幡小少年団海水浴」の写真である。場所は、三谷海岸か、あるいは三河大島だと思われる。

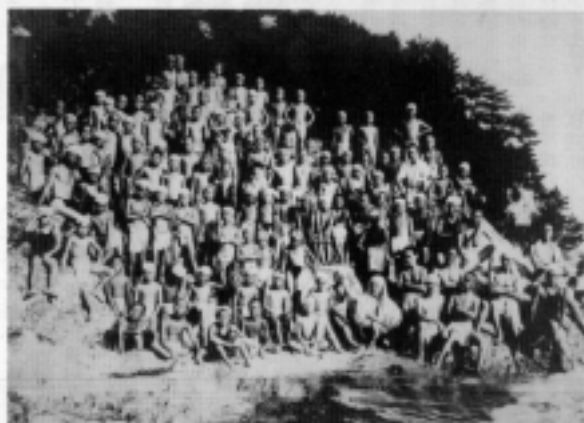
当時の水着は、昔懐かしい裨（ふんどし）であった。この写真に写っているのは男子ばかりであるが、中には、現在の女子用水着のようなものを着用している子供もいる。

戦前は、少年団の活動と学校教育は不離一体のものと考えられていたようで、初等科三年以上の男女が団員となり、学校長が団長として、少年団を統率していた。班の構成は、地域主体であった。今の「子ども会」のような組織であろうか。

鍛錬の合間に撮影した貴重な一枚である。

フォトヒストリー

岡崎の教育



食欲の秋。秋刀魚をはじめ、おいしいものがたくさん並ぶ季節である。

ただ、スーパーの店頭には、一年を通してほぼ同じような食材が並び、どれが旬のものであるかを知ることが難しい。

「今日は今年初めて○○を食ったね。」という会話が家庭でどのくらい交わされているだろうか。

シオ スア

数百人に一人の確率で選ばれるという裁判員制度の候補者選定が行われている。今まで裁判に無縁であった我々が、実際に裁判員となって公正な判決が下せるかどうか、不安も多い。世の中のさまざまな出来事を、公正な眼で見て判断できる子供を育てていかねばならぬ必要性を感じる。

教える自信の有無にかかわらず、三年後には小学校高学年で外国語の授業が必修となる。

今回紹介した「パイロット校」では、子供たちと英語との、さらには英語を通じて多様な人々とふれあいを大切にしている。

多くの実践に学び、日々の英語活動で自らを鍛え、その時を迎えたい。

秋といえば芸術の秋。十月二十五、二十六日には「第45回おかきっ子展」が開催される。子供たちが思いを込めてつくった作品には、どんな芸術品にも負けない「味」がある。今年のテーマは「感じて、伝えて、すてきな出会い」。この二日間、作品とのすてきな出会いが生まれることを期待している。

この本を

- * 宮本武蔵 五輪書 神子 侃訳 徳間書店 ￥1,890
 - * 授業する力をきたえる 前田 勝洋他 黎明書房 ￥2,100
 - * ハッピーになれる算数 新井 紀子 理論社 ￥1,260
 - * 日本人 礼儀作法のしきたり 飯倉 晴武監修 青春出版社 ￥735
 - * 心を揺さぶる語り方 一龍斎貞水 NHK出版 ￥735
- 人はことばで意志を伝えるが、最近、それがうまくできないがためのトラブルや事件が多い。
- 本書は、講談師で人間国宝である氏がこれまでに培った技と心をわかりやすく説いたものである。話がよく伝わるようにするには技術も必要であるが、最後は話し手の人間性や真剣さが重要であると説く。テンポのよい語り口に引き込まれ、一気に読み通すことができる本である。
- 竜谷小 栗田万砂夫

